Ⅳ．大学連携講座「学びの杜」

大学連携講座「学びの杜・学術コース」

藤　田　高　弘

【抄録】 平成17年度から始まった「学びの杜・学術コース」の特色と、学習目標を明確にし、平成17年度に開講された講座と講座内容を掲載した。この大学連携講座の成果と課題を、附属学校で実施した「学びの力」に関するアンケート調査の結果から明らかにした。成果としては、「探究する力」と「自分を知る力」について、自己認識レベルではあるが、「学ぶ知識の広がり」と「自分の将来を自覚的に選択する力」を育む機会を提供できたことにある。課題としては、人数や講義形式の制限から「自ら課題を設定したり」、「表現する力」を充分に育成する機会となっていないと認識していることである。

【キーワード】 大学連携、学びの力、探究する力、自分を知る力、課題設定・解決能力

1　概要

1. 学びの杜・学術コースの特色と目標

平成17年度から、「学びの杜・学術コース」を大学との連携事業として新たに開設した。この事業は、名古屋大学との新しいパートナーシップとして名古屋大学の研究者が附属の高校生向けに用意した知の探求コースである。「学びの杜」という講座自体は、平成14年度より名古屋大学との連携講座として開催されていた。この講座は、年間10講座ほどが開催され、１回～３回程度の単発の講座であり、本校生徒や保護者を対象に休業中や短縮授業中に開設されていた。この学びの杜を、生徒の希望や、教員の希望や必要性に応じて開設する「学びの杜・総合コース」として残し継続する一方で、新たな次の４つの特色を持った「学びの杜・学術コース」を開設することになった。

学びの杜・学術コース４つの特色
1）系統的なテーマを持った連続講座を用意する。
2）名古屋大学のリソースを最大限活用し、学習を深化させる。
3）自分の将来へのヴィジョンを広げる。
4）附属学校での単位として認める。

また、この講座を開設するにあたって、生徒に付けさせたい学びの力を以下のように設定した。今年度は研究開発総括の年であるので、研究開発を通して付けさせたい「学びの力」に対応する形でこのプロジェクトの目標を以下のように設定した。

学びの杜・学術コースの目標とする学びの力
1）大学での専門的な学びを視野に入れて、興味・関心を育む。
2）問題発見・解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多元的な思考力を育む。
3）幅広い学びの環境から、自分の適性を知る。

「学びの杜・学術コース」の実質的な運営にあたって、特に開設の時期、部活動との関連、単位認定については、以下のように生徒に説明した。開催される時期については、基本は土曜の午前とし、講座によっては夏期休業中などの集中講座がある。年度初めに少なくとも前期講座の予定がわかるので、計画的に参加できる。部活動と「新しい学びの杜」の予定が重なることに対して、部活動との両立が可能となるように、「新しい学びの杜」が予定されている土曜日の午前は原則として部の活動をしないことを学校全体で確認した。附属学校での単位については、１講座につき１単位を認定することを伝えた。

2. 学びの杜・学術コースの運営体制・研究

始めに、附属学校内の中長期委員会がプロジェクトの立ち上げと研究の方向性を担った。また、2005年の４月からの実質的な研究や運営は、校内研究グループの大学連携グループが、１年間の実質的な運営や研究を担当した。また、教育学部と附属の合同研究グループを立ち上げ、協同で協議し学びの杜・学術コースの運営と研究の実質的決定機関としての役割を果たした。この合同研究グループは、教育学部教員代表１名、附属学校教員代表１名、教育学部教員５名、附属学校教員２名、教育学部の委員、教育学部大学院生１名で構成されている。2005

年度は１月までに、７回の委員会を開き、運営と研究の両面の実質的討議をし方向性を決定した。

3. 学びの杜・学術コースの研究内容

学部との合同研究では、事前・事後のアンケート調査、授業毎のアンケート調査を実施することにした。事前・事後のアンケート調査では、本講座の目標であるキャリア意識形成、学習意欲、知識活用力の変化を中心に観察することにした。また、大学での学問領域と中等教育の既存教科の関連をどのように意識しているかを観察することにした。

授業毎のアンケートでは、各授業内容の振り返りを通して、授業内容に対する興味・関心度、理解度の確認を中心に実施した。また、各大学院生２名のTAによるビデオ観察、生徒の活動記録を通して、アンケートでは表れにくい生徒の様子の記述、記録を試みた。

附属での研究では、カリキュラム評価の一貫として、学びの杜・学術コースの目標とその目標に対する学びの力を設定し、それぞれの学びの力に対応するアンケート項目を作成し、アンケート調査を実施した。以下にコースの目標と学びの力を示す。

A　大学での専門的な学びを視野に入れて、興味・関心を育む。
①理解する力　⑤自分を知る力

B　問題発見・解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多元的な思考力を育む。
①理解する力　②思考する力　③表現する力
④問題を設定する力　⑥創意工夫し解決する力
⑦探究する力

C　幅広い学びの環境から、自分の適性を知る。
⑤自分を知る力　⑧人や社会と関わる力

4. 学びの杜・総合コース講座内容

平成15年度より附属学校で実践されてきた学びの杜講座は、生徒の知的好奇心を刺激し新しい自分との出会いを深く探究する目的でこれまで開催されてきた。これまでの講座内容を以下にまとめる。

第１回：６月29日　10：30〜12：00
・理学研究科　多元数理　梅村　浩先生「円周率πの話」
第２回：７月15日　14：00〜15：30
・理学研究科　福井　康雄先生「宇宙と太陽系のはじまり」
第３回：７月17日　14：00〜15：30
・理学研究科　福井先生「宇宙の一部としての人間」
第４回：７月16日　14：00〜15：00
・農学研究科　海老原　史樹文先生「体内時計のはなし」
第５回：７月20日（土）
・「動物の人類社会への貢献と動物科学の挑戦」—食と病と伴侶を通して—
日本畜産学会・東海畜産学会主催、附属学校連携
第６回：７月23日　14：00〜15：30
・法学研究科　増田　知子先生　「歴史から何を学ぶのか〜戦争・国家・人間〜」
第７回：10月19日　10：20〜12：00
・経済学研究科　根本　二郎先生「価格の働きを通して見る経済」
第８回：11月12日　10：20〜12：00
・愛知県立芸術大学　神田　毎実先生「体験！現代美術の世界—アートって何？—」
第９回：10月19日　10：20〜12：00
・生命農学研究科　村松　達夫先生
「クローンニワトリと遺伝子操作—ニワトリって何のため？—」

〈16年度〉
環境学研究科　夏の短縮期間中
連続講座テーマ「附属学校のあるまち」
講師：名古屋大学　環境学研究科　小松　尚　先生
・７月13日（火）午後２時〜４時　第一総合教室
講義：「附属学校のあるまち・〜千種区ってどんなところ？」
・７月14日（水）名大東山キャンパス内
フィールドワーク１：「附属学校のあるまち・〜東山キャンパスってどんなところ？」
・７月16日（金）覚王山フィールドワーク実施
フィールドワーク２：「附属学校のあるまち・〜覚王山ってどんなところ？」
・７月17日（土）午前10時〜午後３時まで（途中お昼時間あり）
作品制作「附属学校のあるまち・〜まちに提案してみよう」

法学研究科　12月の短縮期間中
連続講座
第１回：12月14日（火）14時〜16時
テーマ「説得の学問としての法律学」
講師：中東正文　先生（法学研究科助教授）
第２回：12月15日（水）14時〜16時
テーマ「プロ野球選手のストライキ—プロ野球選手は労働者か」
講師：和田肇　先生（法学研究科教授）
第３回：12月16日（木）14時〜16時

テーマ「賢い消費者－カードの便利さと怖さ」
　講師：藤田哲　先生　（法学研究科教授、弁護士）
第４回：12月17日（金）14時～16時
テーマ「安全保障と沖縄」
　講師：愛敬浩二　先生　（法学研究科助教授）

5.「学びの杜・学術コース」の講義内容

平成17年度から開催された新しい「学びの杜・学術コース」は、教育発達科学研究科の心理学講座より始まった。高校生の受講希望調査を実施したところ、高校１年生80人、高校２年生69人、高校３年生10人の合計159人の参加希望があった。そこで、高校２年・３年の生徒には予定されている心理学探究講座、そして高校１年生には今年度に限り別の心理学講座を開設した。夏休みには、教育学探究講座を１週間の集中講座で、後期には２時間連続５回の法学探究講座、理学探究講座を開催した。以下にそれぞれの講座の予定と概要を紹介する。

前期「心理学探究講座」の講義予定（高校２年・３年生対象）

全体テーマ：心の科学「心理学」はどのような研究をするのか

回	月日	担当者	講義題目	講義内容
1	５月14日	吉田俊和	友だちになっている理由	なぜ、今つきあっている人が友だちなのかを考えよう
2	５月21日	高井次郎	人間って皆同じなんだろうか	文化によって人間の心理的プロセスや行動がどのように異なるのか検討してみよう
3	５月28日	河野荘子	思春期ってどんな時期	高校生は思春期といわれる時期。心の中に何が起こっているかのぞいてみよう
4	６月11日	平石賢二	私らしく生きるとは	私らしさとはそもそも何なのか、どのように形成されるのか、という問題について検討してみよう
5	６月18日	河野荘子	「キレる」ってなんだろう？	「キレる」とは心理学ではどういう心の状態をいうのかを考えてみよう
6	７月９日	金井篤子	キャリアって何だろう	キャリアについて心理学的視点から考えてみよう
7	７月16日	金井篤子	進路を考えてみよう	自分のキャリアを展望しながら、進路を少し考えてみよう
8	７月23日	高井次郎	人種差別問題を考えよう	人種差別の背景にある心理的・社会的な要因を追及しよう
9	９月３日	平石賢二	親子の絆・家族の絆	親子関係、家族関係について心理学的視点から考えてみよう
10	９月10日	吉田俊和	人を説得するということは	どのような説得の仕方が有効かを考えてみよう

前期　高校２・３年「心理学探究講座」の受講者人数

高２		高３		合計	
男	女	男	女	男	女
17人	42人	１人	９人	18人	51人

前期「心理学探究講座」の講義予定（特別　高校１年生対象）

回	月日	担当者	講義題目
1	５月14日	吉田俊和	性格とは何か、性格の形成
2	５月21日	小池はるか	自分の見せ方、かくし方
3	５月28日	吉田俊和	きょうだい関係、一人っ子

4	6月11日	吉田俊和	日本の子どもの育ち方
5	6月25日	速水敏彦	やる気は数式で表現できるか
6	7月9日	吉田俊和	ものの見え方、人の見え方
7	7月16日	吉田俊和	人の関係の見え方
8	7月23日	吉田俊和	集団になると起きること
9	9月3日	吉田俊和	うわさが走る
10	9月10日	村上　隆	心理学と科学の方法

前期　高校1年「心理学探究講座」の受講者人数

高1		合計	
男	女	男	女
33人	47人	33人	47人

前期「教育学探究講座」の講義予定

全体テーマ：教育科学のフロンティア

回	月日	担当者	講義題目	講義内容
1	7月25日	的場正美	ガイダンス教育科学のフロンティア	受講オリエンテーションと全講義を通して何を目標に、どのような学習をするかのをガイダンスする。
2	7月26日	的場正美	教育科学のフロンティア	教育科学の最先端の研究方法や研究内容を紹介し、教育学は何を目的に、どのような研究方法でアプローチするかを体験的に学習しましょう。
3	7月27日	吉川卓治	歴史のなかの附属学校	この学校は、いつ、どうして生まれたのでしょうか。どんな先生や生徒がいたのでしょうか。歴史を60年くらいさかのぼって、この学校が誕生してから現在にいたるまでの道筋をたどりなおしてみましょう。
4	7月28日	松下晴彦	身体の加工と＜眼差し＞の形成	私たちは様々な働きかけの中で教育を受け、今日ある自分、自己を確認できるが、そのような働きかけがいつどのようにして始まり、今の自分に影響があったのか、実際にはよくわからない。ちょっとしたしぐさや言葉遣いなど、友人に指摘されるまでは無意識の次元だったということもあるだろう。 この回では、人類の身体加工の歴史、教育が「身体を記憶として扱う」側面、また「屈折した」アイデンティティの形成について、フィクション・ノンフィクションの素材を使いながら、教育おける身体所作と＜眼差し＞形成についてともに考えていく。
5	7月29日	横山悦生	北欧の教育について	最近の北欧の学校の様子を、ＤＶＤやスライドを使って紹介し、それについて日本の教育と比較しながら、その相違点がどこからきているのかについて、参加者で議論する予定である。
6	8月1日	牧野　篤	日中両国の自己表現	歴史認識、靖国問題、反日デモ、なかなかわかりあえない日中、なぜなのか、どうしたらいいのか考えます
7	8月2日	服部美奈	フランスのスカーフ問題から学校教育と衣を考える	本講義では、フランスの公立学校におけるムスリム女性のスカーフ着用をめぐる問題を題材に取りながら、学校教育における衣をめぐる問題について考える。講義では、1）ムスリム女性にとってのスカーフの意味と効用、2）スカーフと衣をめぐるイスラーム解釈の多様性、3）フランス政府側とムスリムの見解の相違について概説を加えつつ、短いグループ発表を交えながら、広く学校教育と衣の問題についてディスカッションしたい。

8	8月3日	近藤孝弘	歴史はなぜ教えられるのか	みなさんは、どうすれば世界史や日本史で良い点数をとれるようになるのか？そういうことばかり考えていませんか？今回は、少し見方を変えて、どうして学校では歴史が教えられているのか、その目的は何なのか、について検討しましょう。
9	8月4日	南部初世	こんな学校だったらいいな！	みなさんは、学校に何を求めていますか？そして、それを実現するためにはどうしたらよいのでしょう？みなさんにとって身近な問題から、今日の学校教育をめぐる問題に接近し、それらがいかなる社会的文脈において生じているのか考察します。
10	8月5日	柴田好章	反省知の現在	全講座のまとめと授業実践を体験的に学習する。

前期「教育学探究講座」の受講者人数

高1		高2		合計	
男	女	男	女	男	女
11人	13人	8人	5人	19人	18人

前期「法学探究講座」の講義予定

全体テーマ：「法」というものを通じて社会を見る目を養う

回	日時	授業テーマ	授業内容	担当者	備考
1	10月15日（土）	法というものの考え方	法とは何でしょうか。分厚い六法全書をイメージするかもしれません。法で何かのルールが定められている場合に、皆さんは、どうして、それを守るのでしょうか。法律学は説得の学問であるといわれます。テレビでも法律を取り扱った番組が多くなりましたが、私は、島田紳助さんの「行列のできる法律相談所」を薦めています。回答する弁護士さんたちが、違う意見を出して、理由を議論しますね。これが法律学の本質です。授業では、説得の学問の躍動感を、味わってもらいたいと思っています。	中東正文	9時00分～10時30分
		情報化社会と法	「情報化社会」という言葉を良く聞きます。しかし、「情報化」とはどういうことで、それによって私たちの社会はどう変わるのでしょうか。コンピュータの普及はしょせん手段の変化であり、社会の本質的変化に結び付かないという意見もあります。あるいは変化があるとして、それが良いか悪いかについても意見は分かれています。この授業では、「情報化」の本質とそれが社会、特に法や政治に与える影響について考えます。	大屋雄祐	10時45分～12時15分
2	10月29日（土）	国際紛争の背景（イラク紛争の背景）	冷戦後の国際社会では、地域紛争、民族紛争が頻発し、欧米大国、および国際機関は紛争処理、紛争後の平和構築に関与してきた。しかし、大国主導の紛争処理は、紛争当事国の政治経済状況や社会構造を十分に考慮したものとはいえず、紛争後社会の国家建設は遅々としている。さらに、アメリカは冷戦後、一方的な世界戦略を進め、国際秩序の安定確保に貢献しているとは言いがたい。授業では、こうした点から21世紀の国際政治のあるべき姿を考えてみたい。	定形　衛	9時00分～10時30分
		国際平和と憲法9条	憲法9条は「非武装平和主義」を定めている。9条の理想をすばらしいとは思いつつも、「軍隊なしに平和を守れるのかな？」、「自衛隊がイラクまで行ってるのに、今さら9条なんていってもね」。こんな疑問を持っている人も少なくないだろう。この授業では、これらの素朴な疑問を、現実の国際政治と国内政治との関係で考えることによって、9条問題に関する理解を深めたい。	愛敬浩二	10時45分～12時15分

3	11月12日（土）	憲法の成り立ちと仕組み	「憲法」と聞くと、何か堅苦しいもののように感じるかもしれませんが、実は、直接間接に私たちの生活に関わっています。たとえば生徒の場合でいえば、学校の校則って何でも決めていいんだろうか。「男女平等」と言われて久しいけれど、本当に平等って実現したんだろうか。就職したら、企業の中で労働者の権利は護られているんだろうか・・・などなど。この授業では、そもそも憲法ってどのように生まれてきて、何のためにあるの？というところまで遡りながら、その存在意義を考えてみたいと思います。	本　秀紀	9時00分～10時30分
		フランス革命とナポレオン法典	みなさんは「六法」ということばや書物の名を聞いたことがあるでしょう。その起源をたどっていくと、じつは、フランス19世紀初頭、ナポレオンの第一帝政の時代にさかのぼります。今回の授業では、200年前に制定された、いわゆるナポレオン法典のオリジナルの本などを手にとって見てもらい、また、さまざまな図像などを見ていただきながら、歴史に触れることの楽しみを味わいながら、と同時に、近代の法制度の成立を考えてみます。	石井三記	10時45分～12時15分
4	11月19日（土）	働くルール	高校や大学を卒業して会社に就職すると、すぐに働き方のルールに遭遇します。たとえば正規社員とパート社員とどう違うのか。派遣労働者の労働条件はどうなっているのか。フリーターは、本当に自由な働き方なのか。サービス残業はどうして発生するのか。それは労基法違反ではないのか。等々。この授業では、働き方の基本的なルールを考えることにします。皆さんの親の働き方を検証してみてください。	和田　肇	9時00分～10時30分
		契約のルールと賢い消費者－契約の自由と責任を考える	約束は守らなければならない。人間として当たり前のことだ。人と人との契約は、約束の最たるものだ。いったん契約書にサインした以上、気が変わっても簡単に取りやめることはできない。いったん結んだ契約は、約束したとおり履行しなければならないのだ。クレジットカードで物を買う時は、どうだろう。誰とどのような約束をするのだろうか。約束を破ったら、どうなるのだろうか。	藤田　哲	10時45分～12時15分
5	12月10日（土）	江戸の裁判、日本の近代化と法	江戸時代の裁判といえば、「大岡越前」や「遠山の金さん」などを思い浮かべる人が多いのでは？実際の法廷では、奉行が頓知奇才を発揮して意表をつくような判決を出したり、正規の裁判手続を無視するようなことはありません。200余年続いた平和の中で、封建制の枠内という制約はあるものの、裁判のやり方はそれなりに合理的なものをめざして発達していました。明治以降、急速に近代化を進めるため、イギリス、フランス、ドイツなど西欧近代の法を日本に移植し、それが現在の日本法の基礎になっていますが、異文化社会の法をなぜ短期間のうちに移植することができたのか、その際にどのような問題があり、また現在まで影響を及ぼしているか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。	神保文夫	9時00分～10時30分
		「まとめ」	それまでの9回の授業を振り返って、法律の入り口を垣間見てどう感じたかを生徒と一緒に考えてみたい。そして、法律というものが社会でどのような働き方をしているのか、についてまとめの話をしたい。	和田　肇	10時45分～12時15分

前期「法学探究講座」の受講者人数

高1		高2		高3	合計	
男	女	男	女	男	男	女
6人	8人	4人	2人	1人	11人	10人

前期「理学探究講座」の講義予定

全体テーマ：　私たちは暗黒宇宙から生まれた

	日時	授業テーマ	授業内容	担当者
1回	10月22日	第1章　宇宙誕生	137億年まえのビッグバンによる宇宙誕生の解説	福井　康雄
2回	10月29日	第2章　天体の運動	惑星がどのように運動するか、原理を解説	福井　康雄
3回	11月5日	第3章　太陽系の成り立ち	太陽系の惑星、小惑星、彗星などの起源を解説	福井　康雄
4回	11月12日	第4章　光と電波	宇宙の放つ、光や電波という電磁波を解説	福井　康雄
5回	12月10日	第5章　星の誕生	星間ガスから星が生まれる仕組みを解説	福井　康雄
6回	12月17日	第6章　電波で宇宙を見る	電波で見た宇宙の姿を学ぶ	大西　利和
7回	1月7日	第7章　赤外線で宇宙を見る	赤外線で見る暖かい宇宙を学ぶ	芝井　広
8回	1月14日	第8章　X線で宇宙を見る	エックス線で見える熱い宇宙を解説	國枝　秀世
9回	2月4日	第9章　理論で宇宙を解く	理論研究はどのように宇宙をとらえるかを解説	松原　隆彦
10回	2月11日	第10章　まとめ	講座の総まとめ	福井　康雄

前期「理学探究講座」の受講者人数

高1		高2		合計	
男	女	男	女	男	女
15人	9人	2人	1人	17人	10人

2　成果と課題

1. 授業目標と求める力の確認

平成17年度から、「学びの杜・学術コース」を大学との連携事業として新たに開設した。この事業は、名古屋大学との新しいパートナーシップとして名古屋大学の研究者が附属高校生に向けて用意した知の探求コースである。この講座を開設するにあたって、生徒に付けさせたい学びの力を以下のように設定した。今年度は研究開発総括の年であるので、研究開発を通して付けさせたい「学びの力」に対応する形でこのプロジェクトの目標と求める力を以下のように設定した。

A　大学での専門的な学びを視野に入れて、興味・関心を育む。

①理解する力　⑤自分を知る力

B　問題発見・解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多元的な思考力を育む。

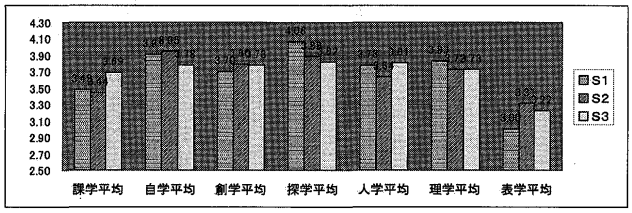
①理解する力　②思考する力　③表現する力
④課題を設定する力　⑥創意工夫し解決する力
⑦探究する力

C　幅広い学びの環境から、自分の適性を知る。

⑤自分を知る力　⑧人や社会と関わる力

2. 結果（データ）の概略

附属学校で実施した「学びの力」のアンケート調査（2005年11月実施）の結果より



表の見方：「学」は学びの杜講座のことである。「課学平均」の「課」は課題を設定する力、「自」は自分を知る力、「創」は創意工夫し解決する力、「探」は探究する力、「人」は人や社会と関わる力、「理」は理解する力、「表」は表現する力

身に付けさせたい「学びの力」で最も平均値の高かった力は、「探求する力」と「自分を知る力」であった。「探求する力」の5検法の平均値は、高校1年生4.06、高校2年生3.88、高校3年生3.82である。次に、「自分を知る

力」の平均値は、高校１年生3.91、高校２年生3.95、高校３年生3.78である。

次に平均値の高い力は、「理解する力」と「創意工夫する力」である。「理解する力」は高校１年生3.83、高校２年生3.72、高校３年生3.73である。次に、「創意工夫する力」の平均値は、高校１年生3.70、高校２年生3.80、高校３年生3.78である。

最も平均値の低かった力は「表現する力」である。高校１年生3.00、高校２年生3.31、高校３年生3.22である。次に低かった学びの力は「課題を設定する力」で、高校１年生3.49、高校２年生3.44、高校３年生3.69となっている。各学びの力の学年差において有意な差は特に見られなかった。

3. データからわかることと目標達成度の検討

探求する力のアンケート項目（1. 探求することで知識・技術の広がりを確認することができる。2. 専門領域に関連する他領域について深く学び探究することができる。3. 専門家である講師の方の話を興味をもって聴くことができる。）から判断するならば、大学の教員による専門領域や関連領域を興味深く探る体験ができたと評価できる。また、能動的な姿勢で学問領域を学び、探求する活動が展開されていたと考えることができる。また、自己認識レベルではあるが、探求する活動によって学ぶ知識の広がりを認識することができたと判断できる。

自分を知る力のアンケート項目（1. 自分の選択した専門領域に関連する教養や知識（技術）を広げることができる。2. 自分の興味・関心を考え、学びたいことや将来の自分に必要なことが分かる。3. 将来選択する分野への自分の理解を深めることができる。4. 将来選択する分野で必要とされる能力と自分の適性を現実的に考えることができる。）によると、本校の核となる一つの学習観「自分の将来を自覚的に選択する力」を育む学習の機会となっていることを示している。

理解する力のアンケート項目（1. 高校と大学で学ぶ内容の関連性が分かる。2. 高校と大学で学ぶ内容の違いが分かる。3. 専門分野についての基本的な知識を得ることができる。）から判断するならば、高校と大学の橋渡しとなる学習経験や、これからの大学での学習に必要とされる基本的な知識や考え方を身につける学習を経験することができたと推測できる。

表現する力の平均値の低さは、講師の先生や他の受講生と積極的に意見交換をすることが充分にできなかったことを表していると考えられる。特に心理学探究講座においては受講者が70名から80名になり、講義形式の中心の授業展開になってしまったと考えられる。

4. 生徒が付いたと感じる別の力（記述フォームまとめ）とその授業の目的との関連分析

上記のデータだけでは見えてこない内容を自由記述から拾ってみると、キャリア意識の形成において興味深いことが分かる。例えば、学びの杜の学習を通して、自分の興味のある分野に進学する気持ちが強くなった生徒と同時に、進みたいと思っていた分野と自分の適正や関心のミスマッチを発見する生徒もいる。

そのミスマッチを発見した生徒は、「心理学をやるのも楽しそうだと思ってこの講座を取ったけど、全部終わってみると、やっぱり自分に心理学は向いていないなって思うようになって、その道に進むのはやめました」と語っている。学びの杜での学習が、将来の**自分のキャリアへの試行錯誤**の機会を与えていると言えるのではないだろうか。

また、講座受講によって、普段の学校の教科を見直す機会も提供している。受講前には心理学は高校の授業とは全く関係がないと回答したある生徒は、受講後、すべての教科に関わっていると考えるようになった。それ以外にも、授業前には考えもしなかった教科との関わりを発見している。学びの杜は、**現在の学習が大学での基礎**となることを確認するきっかけにもなっている。

5. 今後の課題

今後は学びの杜講座のカリキュラムと学習シラバスを、専門研究を担う名古屋大学の各研究科、教育研究を担う教育発達科学研究科、中等教育を担う附属学校の三位一体で開発することが課題として残っている。その際に、中等教育で身に付けるべき学びの力と、高等教育との**「学びの連続性」**を視野に入れて学習シラバスを構築することが大切であると考えている。また、講座の成果を教育学的に分析して、今後につなぐ教育実践の評価計画の構築も課題として残っている。